

国際環境工学研究科 環境工学専攻 建築デザインコース 修了認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

国際環境工学研究科環境工学専攻建築デザインコース（博士後期課程）は、以下の能力を有すると認められた者に博士（工学）または博士（学術）の学位を授与します。

■ 高度な専門的知識・技能

- 建築学を過去から未来へ繋がる豊かな人間環境と空間形成として理解し、総合的な視点から建築学の本質を深く理解し、本分野の高度専門知識と創造的・実践的知識を持つ。
- 建築を安全にする能力、快適な空間を提供する能力、芸術性を表現する能力等、高度な建築技術開発能力を駆使し、研究者及び教育者として自立して問題を解決する能力を持つ。

■ 高い問題解決能力と表現力

- 建築学における社会的事象に対して国際的視点から課題を抽出して、その解決のための自らの思考・判断のプロセスを説明し、独創的かつ有意義な情報の発信ができる。

■ 高い倫理観に基づいた自律的行動力

- 地域や組織の中で他者と協力して計画的にプロジェクトを推進することができ、高度な学術研究の立場から問題解決の意欲、態度を持つ。

国際環境工学研究科 環境工学専攻 建築デザインコース 教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)

国際環境工学研究科環境工学専攻建築デザインコース（博士後期課程）では、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を実現するために、以下のとおり教育課程を編成し、実施します。

教育課程の編成

（編成の方針）

- 1 建築デザインコースは、地球環境を視野に入れた建築学に関する基礎から応用に至る専門的かつ創造的・実践的知識及び建築学分野の技術開発に必要な高度なスキルを修得するとともに、自律的・継続的に学ぶ意欲を持ち、技術が社会に及ぼす影響をふまえた社会的責任と倫理観のもと、問題解決に向けて積極的・主体的に行動する力を身につけることを目指して、教育課程を編成する。
- 2 教育課程は、建築学の視点から論理的に考察する力、及びコミュニケーション力を育成しつつ、自身の考えや判断を効果的に表現できる力を養成するため、高度な専門知識を養成する専門科目及び特別研究科目で編成する。

（教育課程の構成）

※()は修了に必要な最低単位数で、修了要件単位数 12 単位の内訳
建築デザインコースの教育課程は、編成の方針に基づき、「専門科目」(6)と「特別研究科目」(6)で構成する。

- 1)「専門科目」(6)は、未来へ繋がる建築を実現できるより高度な専門的知識を身につけるとともに技術者倫理を理解した国際的・学際的に活躍できる研究者及び教育者を養成するため、知的基盤を確立するための講義系科目、論理的な思考や判断のプロセスを構築するための演習系科目、及び実験系科目を配置する。全ての科目を選択科目とする。
- 2)「特別研究科目」(6)は、研究能力やより高度な専門技術を身につけるために直接、個別指導を受ける必修の科目区分とする。

教育の内容・方法

- ・ 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより、又はこれらの併用により行う。
- ・ 学生が主体的に学び、協働して課題解決に取り組むとともに、学習意欲・関心を高め、生涯にわたって学び続ける力を養うため、課題解決型学習(PBL)、グループワーク、プレゼンテーションなど、能動的学習(アクティブ・ラーニング)の手法を授業形態に応じて効果的に取り入れる。
- ・ 予習・復習等、授業時間外の学修について、シラバスへの内容記載や授業での喚起等により、適切な学修時間の確保を促す。

学修成果の評価

- ・ 授業科目の成績評価は、試験、受講態度、並びにレポートや課題、ディスカッション、プレゼンテーションへの取組状況や成果などによって厳格に判定する。成績が一定の水準に達したと認められた場合に、所定の単位を認定する。
- ・ 修了及び学位を請求するためには、所定の科目を含めた 12 単位以上の修得、必要な研究指導を受けた上で、学位請求論文等の提出を必要とする。
- ・ 学生に授業評価アンケート等を実施し、個別科目での学生の理解度や各講義・授業への要望、及び学修達成状況等を把握し、その結果を授業や教育課程の改善に役立てる。

国際環境工学研究科 環境工学専攻 建築デザインコース 入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

国際環境工学研究科環境工学専攻建築デザインコース（博士後期課程）は、次のような人を求めます。

求める学生像

- 未来へ繋がる建築を実現できる高度な専門知識と国際的な場で活躍できる高い能力の習得を目指している人
- 技術の分かるデザイナー、デザインの分かる高度専門職業人および特に研究者を目指している人

求める能力

【知識・技能】

- ・ 建築学を過去から未来へ繋がる豊かな人間環境と空間形成として理解し、総合的な視点から建築学の本質を理解し、その高度専門知識を持っている。
- ・ 建築を安全にする能力、快適な空間を提供する能力、芸術性を表現する能力、クライアントに自分の提案を表現する能力等、高度建築技術者に必要な種々の能力を持っている。

【思考力・判断力・表現力等の能力】

- ・ 建築学における社会的事象に対して国際的視点から課題を抽出して、その解決のための自らの思考・判断のプロセスを説明し、それを学会、国際会議、修士論文発表を通して研究発表できる能力を持っている。

【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】

- ・ 地域や組織の中で他者と協力して計画的にプロジェクトをまとめ、修士論文、作品などを完成させる能力を有すると共に、環境との調和を考慮して、技術者の倫理観に基づく問題解決の意欲、態度を持っている。